

輸出は電気銅 スクラップともに増加

スクラップの需給は飽和状態の見通し

橋本 橋本健一郎氏リポート①

六月前半は、トランプ大統領のG7共同宣言不支持から貿易戦争懸念が高まったこと、五月の中国社会融資総量の伸びが予測を大きく下回り、七、六〇八億元(一、一八八億ドル)となったことが、今後のカッパーへの需要減退を予想させたことなどのマイナスマテリアルもあつたが、五、五シエアの世界最大チリ・エスコンデイヤ銅山での緊張をはらんだ労使交渉の再開が供給懸念となつてゐること、米雇用統計が市場予想を上回つたこと(五月の雇用者数は二二三、〇〇〇人増で予想の一九万人増を上回つた(失業率は三・八%で一八年前ぶりの低水準)ことを好感しLME銅相場はUP、六月十五日時点で七、一三六ドル(セツル)と月初価格より三二二ドル高の前半締めとなった。

後半は、encore所有のKatanga銅山がコンゴの国営銅山ジュカミンとの共同所有Kamoto銅山の資本不足をめぐる法的紛争解決、チリ・エスコンデイヤ銅山の労使交渉解決の期待などプラス材料もあつたが、米中貿易戦争の激化、五月の中国の小売売上高、鉱工業生産指数を受けた中国経済の鈍化懸念、インドスタールイト・ツチコリン精銅所が閉鎖され、二三万トンの銅精鉱の需要が消えるなど需給不安からLME銅相場は下落、七月四日現在、後半スタート価格から五五・一五ドルDOWNの六、五八四・五ドル、建値七八万円円の下。

◆月間のドル/円レート(TTS)
一〇九・五四→一〇七・四(円)
◆自動車生産台数
日本自動車工業会によると、自動車生産台数は前年比三・八%増の七七万七、六七〇台であつた。

◆自動車販売台数
日本自動車販売協会連合会によると、自動車販売台数(軽除く)は前年比七・三%減の二九万二、七六一台。

◆新設住宅着工戸数
国土交通省統計によると、新設住宅着工戸数は前年比一・三%増の七万九、五三九戸であつた。

◆貿易関連指標
輸出
財務省貿易統計によると、輸出は前年比で電

気銅が三三%増の五万二、七六〇t、スクラップが三一%増の二万九、六五五t。

輸入
輸入は電気銅が前年比八二・四%減の六〇〇t、スクラップが五・五%増の二万一、七四三t。

■前月の国内指標
日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば、前年比二・五%増の六万八、一八六t。

日本電線工業会発表の出荷速報(推定)によると、銅電線出荷量は前年比七・四%増の五万五、〇〇〇tであつた。

■概況
【自動車生産】
四月の四輪車生産台数は七七万七、六七〇台で、前年同月比三・八%増となり、二カ月連続増加。
輸出は三四万四、八七五台で前年同月比七・七%増。

【自動車販売】
六月の国内自動車販売台数(軽除く)は二九万二、七六一台で前年比七・三%減と、二カ月連続で減少。
このうち、乗用車七・六%減、貨物二・七%減、バス二九・三%減。

【住宅着工数】
平成三十年五月の住宅着工戸数は七万九、五三九戸で、前年同月比で一・三%増となつた。また、季節調整済年率換算値では九九・六万戸(前月比〇・四%増)となつた。

・住宅着工の動向については、前年同月比で二カ月連続の増加となつており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家は減、分譲住宅は増となつた。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

【伸銅品生産】
伸銅品生産は前年比二・五%増の六万八、一八六tと、三カ月ぶり増加。

このうち、内需五万六、五三三tで二・四%増と二カ月連続プラス、輸出は二万一、六六三tで三%増と五カ月ぶりプラス。

品種別では、銅条二万二、〇一六tで三・三%増と二カ月連続プラス、黄銅棒一万五、七七九tで〇・八%増と四カ月ぶりのプラス。
(六面へ続く)

今月の焦点は米貿易戦争と鉱山ストの動向

(四面より続く)

【電線出荷】

前年比七・四％増の五万五、〇〇〇t。
このうち、国内四・六％増、輸出が二・二・八％増。

出荷部門別では、通信〇・九％増、電力六・九％減、電気機械四・七％増、自動車八・四％増、建設・電販七・二％増、その他内需二・四％減。

【輸出】輸出は電気銅が三三％増の五万二、七六〇t、銅スクラップは三二％増の二万九、六五五t。

【輸入】輸入は電気銅が八二・四％減の六〇〇t。スクラップは五・五％増の一万一、七四三t。

【見通し】

・自動車は生産が三・八％増。国内販売台数が前年比七・三％減。

生産が二カ月連続プラス、販売が二カ月連続マイナス。

販売が増加に転ずるかどうか今後注目。

・住宅着工の動向については、前年同月比で一・三％増と二カ月連続プラス。

増加傾向が続くのかどうか今後の動向に注目。

・伸銅品 三カ月ぶり増加の前年比二・五％増。

需要の多い銅条二カ月連続プラス、黄銅棒は四カ月ぶりプラス。輸出五カ月ぶりプラス。

自動車生産が二カ月連続プラスと改善、連れて伸銅品生産も改善しており、今後の動向に注視。

・電線 前年比七・四％増の五万五、〇〇〇t。輸出が一二・二・八％増。

需要の多い自動車、建設・電販がそれぞれ八・四％増、七・二％増。建設・電販が二カ月連続プラスに！

・銅輸出は、地金、スクラップとも、内需低迷や円安から増加。

・銅輸入は、大幅円安から地金は減少、代わりにスクラップは増加。

【スクラップ需給予想】

流通在庫は前月半ばごろの建値八四万円から七八万円まで下落した過程で放出されており、ほとんどでないのではないかと。

需要面に関しては、足元の生産状況は足踏み状態にあるが比較的良好。

ここ数カ月、メーカーが人手不足問題から地金を優先に使用していることから、品費の低いスクラップに関しては購買意欲は薄く、飽和状態になるのではないかと？

【価格・為替予想】

今月は米貿易戦争と鉱山ストの動向に左右される。

米貿易戦争に関しては、米ハーレー社の工場海外移転検討などに代表されるように、米製造業からも反発の声がでてきており、両国間での歩み寄りが出てくるのではないかと？

鉱山ストに関しては、エスコンディダ鉱山の労使交渉に関しては七月中に解決される可能性があるが、時期的にその他のストが起こる可能性があるのではないかと。

これらを踏まえた七月の銅価格は、米貿易戦争で両国間で歩み寄りが見られ、エスコンディダ鉱山で昨年同様労使交渉が決裂した場合、七、二〇〇ドル付近。

両条件が揃わなかった場合、現状から六、五〇〇ドル付近まで下落するとの予想。

為替は、前記材料からドル円値は一〇九、一一二円(TTM)台を予測。

銅建値に関しては七五〇〜八五〇円程度と予測している。

LME非鉄在庫 (7月4日発表分)

	入庫	出庫	7月3日		増	減
			現在	現		
銅	775	5,075	282,225	—	4,300	
GAW	0	0	0	±	0	
	GAC	775	5,075	282,225	—	4,300
サザ	0	0	3,130	±	0	
鉛	0	500	131,175	—	500	
亜鉛	0	225	249,025	—	225	
アルミ	3,300	7,600	1,104,600	—	4,300	
ニッケル	0	0	12,040	±	0	
ニッケル	0	732	269,166	—	732	
アルミ二次(NASAA)	0	120	160,580	—	120	

(単位：トン)